

副業・スポットワーク・テレワーク…

「柔軟な働き方」から地域の未来を考える対話の場

～産学官民が共に行動する『人材不足を乗り越える官民対話テーブル』第3回～

北九州市では、今年度新たに、若者の定着や企業の人材確保を強力に推し進めるプロジェクト、「地域力で人材確保アクション」を始動しました。

このアクションの一環として、北九州商工会議所など経済界や業界団体、人材不足に果敢に取り組む中小企業の経営者、地域の課題に向き合いたい大学生など、多様な参加者が一堂に会する「人材不足を乗り越える官民対話テーブル」を5月30日に設置しました。

これまでの対話を通じて、参加者から「企業間で人材の奪い合いになっている」などの切実な現状が共有されるとともに、「北九州で働くことを思い描けるイメージづくりが大切」「若者のUIターンや第二新卒の再就職を促してはどうか」などのご意見をいただきました。

前回の第2回対話テーブルでは、「女性を一括りでなく、置かれている状況に応じて戦略的な広報が重要ではないか」「シニア自身がキャリアを振り返り、自己分析ができるよう支援してはどうか」「外国人留学生はテキストによるコミュニケーションが苦手」など様々な視点で意見交換が行われました。

第3回目となる今回（7月10日）は、「多様な働き方」がテーマ。
企業における副業解禁の是非や高度人材の活用、単発・短期間バイトのスポットワーク、働く場所を選ばないテレワークなど「柔軟な働き方」を北九州市でどう広げていくか？
その可能性や課題を話し合います。

前回に引き続き、地元愛にあふれる大学生や柔軟な働き方を取り入れ成長を続ける企業と共に、「自分らしい働き方を実現し、人材が定着する」まちとなるよう、議論を深掘してまいります。

記

1 日時 【第3回】 令和7年7月10日（木） 14：00～16：30

2 場所 ホテルクラウンパレス小倉 2階「香梅」（北九州市小倉北区馬借 1-2-1）

3 テーマ

- ※終了 {
- | | |
|---------------------------------------|---------|
| 【第1回】「若者の採用や定着に関すること」 | （5月30日） |
| 【第2回】「女性・シニア・外国人等の多様な人材の活躍に関すること」 | （6月26日） |
| 【第3回】「副業・スポットワーク・テレワーク等の多様な働き方に関すること」 | （7月10日） |
| 【第4回】「DX等の生産性向上に関すること」 | （7月25日） |
| 【第5回】「第1回から第4回のまとめ」 | （9月以降） |

4 次第 14：00 開会
14：05 議事

- ・第2回の振り返り
- ・人手不足に関する現状と課題（産業経済局雇用・産業人材政策課）
- ・ゲスト企業等からのスピーチ（5社）、参加者からの意見交換等

16：30 閉会

5 第2回の様子 別紙のとおり

【問い合わせ先】 産業経済局雇用・産業人材政策課
担当課長：中川、担当係長：小路

TEL：093-582-2419

■第2回「女性・シニア・外国人等の多様な人材の活躍に関すること」 において挙げたご意見やアイデア

女性活躍について

- 女性という一括りではなく、どの層に対して情報を届けるかを明瞭にして、広報手段を練ることで情報が届きやすくなる。
- 働きたい女性と企業のマッチングには、企業側が業務の可視化・細分化を行い、女性人材の希望する業務形態等を受け入れる態勢の強化が必要。かつ、その企業を支援する市の施策も必要と感じる。
- ライフイベントによる復職後のキャリア保障等への不安の声がある。従業員のマインドセットや企業側の制度充実・職場内のサポートが女性人材の定着に繋がる。

シニア人材について

- シニア人材自身が、可能な業務内容を自覚化することによりと、働くことに前向きになれる。業務内容の向き・不向きを新卒・転職と同様にできるような支援してはどうか。
- 業務の可視化や細分化することで、切り出した一部業務をシニア人材が担うことができる。働ける層を増やすことは、既存社員の生産性向上や時間外勤務の削減等にも寄与する。ひいてはシニア人材の生きがいややりがいの創出にもなる。
- ホワイトカラーのシニア人材について、活躍している事例もある。長年経験した得意分野等を活かした採用を副業等の雇用形態も含めて広めてはどうか。

外国人採用について

- コスト削減による生産性向上ではなく、高度外国人材採用等による企業の付加価値向上へ雇用目的をシフトする方向性はどうか。
- 対面では会話できても、電話やメールでのコミュニケーションが難しく、アルバイトへの応募等もハードルを感じてしまう。
- 採用までの仕組みはできているが、数年で転職若しくは母国へ帰国してしまう。定着・育成を中小企業だけで行うのは難しいため、市による支援事業の継続等をお願いしたい。

その他

- 学生からは、「市の支援制度等の施策は充実していると思うが、市民にその支援制度等がうまく届いていない。様々な層に届く情報発信に取り組んではどうか」などの意見が出た。

■第2回の様子

